最強の名を持つ者たち

笑行星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
最強の名を持つ者たち

【Ｎコード】
Ｎ３０３６Ｗ

【作者名】
笑行星

【あらすじ】
余りに普通すぎる生活に飽きあきしていた双子の兄弟。トラックとの衝突事故によってめだかボックスの世界に転生することにｗｗほとんど最強の能力を使って原作介入を始める。処女作ですがよろしくですｏｒｚ

プロローグ（前書き）

これは最強による最強のための最強な物語である。ｗｗ

プロローグ

目の前が真っ暗だ・・・
いや間違えた、真っ白だった。
横を見ると弟がいた。
『なぁ、ここどこだ？』

「いや、僕に聞かれても・・・。」

う～ん
とりあえず順を追って記憶を探ってみよう。

俺たちは双子として生まれた。
兄の俺は○○　××
弟のこいつは○○　□□　　あれ？名前が思い出せねぇ・・・まぁいいや。

俺たちはごく普通の家庭で生まれ、ごく普通に育ってきた。
しかし、俺もこいつも普通というものに飽きていた。

「なぁ兄ちゃん。」　『ん～どうした？』
「僕、こんな生活イヤだよ。」　『それは俺も思ってた。』
「こんなのが続くなら死んだ方がマシだよ・・・。」　『まぁまぁ。これでも見てろ。』
「うわーめだかボックスの最新巻じゃん！！いつのまに・・・。」

『ふっ。俺様をなめるな。』
「兄ちゃん、最近言葉が厨二っぽいよ？」　『気にしたら負け。』
「まぁいいけど・・・ってか球磨川さんカッコいい☆」　『激しく同意。』
「あ～いっそのことマンガの世界に入れたらなぁ」　『激しく同意。』
「兄ちゃん、さっきからそればっかw」　『激しくｄ（ｒｙ』

こんな他愛もない会話してたっけｗｗ
それでこの後、二人でコンビニに晩飯を買いに行った。
今日は両親共々遅くなるとのことだ。

「コンビニ弁当なんて久しぶりだね。」　『そだな。俺たち、基本は手作り弁当だからな。』
「何にしようかな～やっぱり唐揚げ弁当かな。兄ちゃんは？」
『あんぱん。』

。　。　≡（　Д　）

「兄ちゃん、久々のコンビニ弁当があんぱんって・・・。」　『悪い？』
「いや～悪くないけどさぁ。」　『じゃあいいじゃｎブオォォォォォオオン！！！！

『思い出した。コンビニに行く途中でトラックに轢かれたんだ。』
「てゆうことは僕たち死んだの！？」
『そういうことだろ。ちょっと待て、ありゃ何だ。』

起き上がるとなんか机があった。
「兄ちゃん、

〈当選おめでとう！
ボタンを押すとパネルに色々と出てくるから
それに従って転生しちゃってください。〉だって。やったよ兄ちゃん！！」

『おいおい。転生って実在すんのかよｗｗ』　「とりあえずボタン押してみてよ。ワクワク」
『じゃあ行くぞ？』　ピッ　ピピピピピピピピピピピッ

《めだかボックス》

。　。　＝（　Д　）

「に、兄ちゃん！めだかボックスだってやったよ！！」ビシビシ
『正直ビックリだわ・・・・って叩くなよ！』
「あ、やっぱり転生には能力が付き物だねｗｗ」
『まず俺からな？』　ピッ　ピピピピピピピピピピッ

《創造主（クリエイター）》

『なになに、〈能力の創造と譲渡及び強奪〉って強くね？ｗ』
「兄ちゃんいいな～。僕は何かなっと。」　ピッ　ピピピピピピピピピピッ

《弱肉強食（ワンダートリガー）》

「ん～っと、〈能力の強化及び弱化　又、外部からの阻害は受けない〉　これって兄ちゃんの天敵だねｗ」
『弟よ。頼むから味方でいてくれｏｒｚ』
「うん。分かってる。」

〈手に入れた能力で思う存分暴れちゃってください。〉
『言われなくても．．．なぁ？ｗ』　「ねぇｗｗ」　〈では、逝っちゃってください。〉ガコンッ
俺たちが立っていたはずの床がなくなった。

『「　逝ってきます。　」』←←

プロローグ（後書き）

できる限り早め早めに更新する予定です誤字・脱字・意見・評価などがありましたらご指導お願いします。

キャラ設定（前書き）

メインの双子の兄弟の設定をうｐｗｗｗ

キャラ設定

改名　兄

球磨川　楔（くさび）　験体名・異常性　創造主（クリエイター）

過負荷　未覚醒

「球磨川」という姓は弟が面白がって付けた。

黒髪　右青左灰のオッドアイ　１７６　性格　めんどくさがり　でも仕事はちゃんとやる。　弟に関しては面倒見がいい。

好物　あんぱん　三度の飯よりあんぱん

原作知識あり。転生前からこのマンガが好きだったため主要人物のみならずストーリーも覚えている。

真骨頂　？瞬間能力創造　？数字に強い　？意外とツンデレ

改名　弟

球磨川　雪（そそぎ）　験体名・異常性　弱肉強食（ワンダートリガー）

過負荷　未覚醒

白髪　右黒左赤のオッドアイ　１７２　性格　おしとやか　でもキレると兄以外を殲滅する。　兄に関してはデレまくる。

好物　揚げ物　以外に味の濃いものが好みｗ

兄と共に原作知識あり。知識の深さは兄以上！？

真骨頂　？身体強化による接近戦　？文字に強い　？ヤンデレ

キャラ設定（後書き）

とりあえず以上の二人だけにさせていただきます。さらなるオリキャラは後で考えますｏｒｚ

文章力がほすい・・・。

第一目：二歳のある日（前書き）

うまくオリジナルを混ぜて原作介入できるといいんだが・・・・。

まぁやってみよう！！

ここでは楔視点です。

括弧なし＝ナレーション　（）＝心の声

第一目：二歳のある日

目をあけると見知らぬ天井・・・・・転生のテンプレだなw
横を見ると弟が・・・寝てやがる！この野郎、一人だけすやすやと眠りやがって。

『あうあー（おーい、起きろー！！）・・・・・・。しゃべれねぇww』
「すーすーすー。」　（こいつマジで寝てんなw・・・・あ、ちょっとかわいいかもww）

ガチャ・・・・（おっと誰か入ってきたな。とりあえず寝た振りでもしとくかw）

「あらあら、二人して寝ちゃってるわ。」　「ははは、かわいいなぁ。君によく似てるよ。」
「でも、ここはあなたに似てるわよ？」　「ほんとだ。この子たちの成長が楽しみだな。」
「そうね。あそこに連れて行くのは何歳なの？」　「二歳だ。二人には黙っておこう。」
「私たちが決めたとはいえ可哀想ね・・・。」　「仕方ないさ。あの方の頼みだ。」
「死ぬことなんてないわよね？」　「あの方の持つ技術は計り知れないからありえないさ。」
「そう・・ね・・・。もう行きましょう。」　「ああ。」

ガチャ・・・・バタンッ

（行ったか・・・・・。今のが俺たちの親か～　えらい母さんが美人なんだがｗｗ）
（それに比べて父さんは中の上の下みたいな顔だｗｗ）←想像してごらんｗ
（さて・・・雪は起きそうにないから俺も寝るか。）

（それにしても今の話は何だ。俺たちをどこに連れて行く気だ。）
（・・・・・・・しばらくは様子を見ておくか・・・・。）

～楔・雪　現在二歳～

俺も雪も普通に話せるようになってからいろんなことをした。
家にあった科学っぽい本を読みあさったり
数学の難問を二分で解いてみたり（確か制限時間が二十分だったか

な？ｗ）
能力を使って手から火炎放射をしてみたりした。（↑マジ焦ったｗｗ）

「楔～雪～出掛けるわよ～。」
『「は～い。」』

ブロロロロロロ・・・・

「お母さん、これからどこ行くの？」

「お母さんとお父さんがお仕事してる所よ。」

『どうして行くの？』

「楔と雪にもお仕事を手伝ってもらうからよ。」

「僕たちなにをすればいいの？」

「ふふふ・・・着いたら教えてあげる。」

（それにしてもどこまで行く気だろう？たしか４時間は掛かるって・・・。）

第一目：二歳のある日（後書き）

ほかの作者さんの書き方を真似させてもらうこともあると思うのであしからず。　初めてでうまく書けないｏｒｚ

第二目：病院での一日（前書き）

前回のあらすじ：

転生→火炎放射→移動

おわり

基本的に話し手が変わると2行改行します。
読みづらいですがあしからずｗｗ

第二目：病院での一日

「さあ、着いたわよ。」

「お母さんは病院でお仕事してるの？」

「う～ん。そうとも言える。まあ着いてきて。」

（曖昧すぎるだろw）
（ん？向こうから話声が・・・・。）

【人間は無意味に生まれて】
【無関係に生きて】
【無価値に死ぬに決まってるのにさ】
【きみもそう思うだろう？】【えーと】【めだかちゃん？】

『待てよ。その考えはどうかと思うぜ？』

【きみは誰だい？】

『俺は球磨川楔だ。』

【奇遇だね。僕は球磨川禊っていうんだ】
【同じ球磨川どうし仲良くしよう】

『そんなことはどうでもいい。』
『今の言葉はお前自身に当てはまっても他の人間に当てはまるとは限らねえだろ？』

【そうかもしれないしそうでないかもしれない】

「球磨川くーん。５番の検査室に入ってくれる？」

【・・・まぁこれだけは言っておくよ】
【僕やきみたちがなにをしてもいいことを】

『何なんだあいつは・・・。』

「貴様は誰だ？始めて見る顔だな。」

『あぁ親がここで働いているんだ。俺は球磨川楔だ。よろしくな。』

「こちらこそよろしく。私は黒神めだかだ。」

「楔ー何してるの？早くいらっしゃい。」

『はーい。　じゃあな黒神。機会があったらまた会おう。』

「あぁまたな。」

「何を話してたの？」

『世間話だよ。』

「ふーん。じゃあ私たちの仕事場を案内するね。」

（球磨川禊・・・・・原作知識があるとはいえ異常なまでの過負荷だな。）
（しかも最後に言った言葉・・・・・）

【だって世界には目標なんてなくて】【人生には目的なんてないんだから】

（不気味すぎるほど不気味だな。）
（まぁ最強の俺に勝てるわけがないがな。フハハハハハハハハ！！）

（兄ちゃん、痛すぎるよ・・・・・。）←心が読めるｗｗ

第二目：病院での一日（後書き）

一向に話が進まないんだが大丈夫か？　　大丈夫じゃない。問題だ。
話が全部駄文何だが大丈夫か？
ｗｗ

お気づきのようですが、
球磨川楔→『』　球磨川禊→【】　それ以外→「」
の設定です。（変更の可能性大ｗｗ）

これからも末長くお願いしますｏｒｚ
誤字・脱字・意見・感想お待ちしてます。

第三目：プロジェクトＴＴ（前書き）

前回のあらすじ：

乱入→口ゲンカ→逃亡

おわりｗｗ

基本的に話し手が変わると二行改行します。

第三目：プロジェクトＴＴ

病院に入った俺たちは病院の奥にある階段を降りた。
その先で見たものとは・・・・・。

「はいっ！！これが私たちの仕事場よ。」

「わーすっごく広いねぇｗｗ」

『お母さん、これは病院というより研究所なのでは？（（汗』

「気にしたら負けｗ」↑（兄ちゃんの厨二はお母さんを継いじゃった？ｗ）
「ところでここに二人を連れてきたのは
私たちの研究に協力してもらいたいわけなのよ。」

『「！！」ちょっお母さん、まだ二歳の俺たちに何ができるのさ！』

「ちっちっち。この超有名天才科学者の私が楔と雪の異常に気付か

ないとでも？」

『「！！！」　いつから知ってたの？（ってか自分で何言っちゃってんのｗ）』

「うーんと、楔ちゃんが火炎放射ぶっ放した時からｗｗ」

（見られてたんだ．．．．ｏｒｚ）

「今回の研究は、私たちのＢＯＳＳが直々に命令されたものよ。」

『どんな？』

「えーと．．．．＜異常性の修繕＞と＜人格の融合＞ね。」

『どんだけ危険な研究してんだよ。特に後者は死人が出るぞ。』

「大丈夫よ。ＢＯＳＳは世界レベルで最先端の技術を独占しているから死人が出ることはないわ。」

「ノーベル賞の受賞者であるジョン・Ｔ・Ｔ・ノイマンがうちのＢＯＳＳよ。」

「ＢＯＳＳの名前から今回の研究・計画をプロジェクトＴＴになっ

たってわけ。」
「ところで、あなたたちの異常を調べるからこっちにいらっしゃい。
」
『その必要はない。すでに理解している。』
『俺は簡単にいえば能力を作って渡して奪うことだ。』
「僕は能力を強くしたり弱くしたりすることだよ。」
「予想以上の異常さね・・・。あの人に会わせた方がいいかしら。」
「とりあえず実験から始めましょうか。」
『死人が出ないなら俺は＜人格の融合＞がしたい。』
「そう。それならさっそく始めましょう。」
俺は興味本位での選択だったが
まさかあんなことになるとはな～ｗｗ

第三目：プロジェクトＴＴ（後書き）

短くてすいませんｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想があればお願いします。

第四目：ある日の理事長（前書き）

最近は夏休み明けで忙しいので更新が出来ないかもしれませんが２日～１週間のペースを続けたいと思いマフ。

第四目：ある日の理事長

『母さん、いつまで待てばいいの？』

「あと少しよ。あの人も忙しい身なんだから。」

『その〈あの人〉っていうのが気になるんだが・・・・・。』

「それは来てからのお楽しm「ガチャ」　っと来たみたいね。」

「お呼びかな？球磨川先生。」

「ようこそいらっしゃいました。不知火理事長。
今回は例の計画に役立つ人材を紹介したくてお呼びしました。」

「ふむ・・・〈例の計画〉というのは〈フラスコ計画〉のことですかな？」

「ええ。それで紹介したいというのはこの二人でして・・・・。」

「どれどれ・・・・・・・・むっ！！」

「こ・・・これは！！！」

「どうしました、不知火理事長？」

ｓｉｄｅ　ｉｎ　～不知火　袴～

久しく会っていない昔からの友人の球磨川先生から連絡が入った。
私が昔から計画している〈フラスコ計画〉という
天才を作る計画に有用な人材を紹介したいとのことだった。
連絡があってすぐに球磨川先生のいる病院へ行った。
応接室に入り先生に挨拶をすると、すぐに異変に気付いた。

先生の隣にいる二人周りが歪んでいた。

一人はこちらを睨みつけ、
もう一人は笑顔を向けた。

「初めまして。私は不知火袴というものでとある学園の理事長をやっておる。」

『球磨川楔だ。よろしく・・・。』
「球磨川雪です。よろしくお願いします。」

・・・・・極端に性格が分かれておるのともかく〈あれ〉をやるかの。
「突然だが君たちにある実験をやってみてほしい。」

『「実験？」』

「そう警戒せんでもいい。このサイコロを振るだけじゃ。」コトンッ
「一人ずつやってみてくれんかの？」

『・・・・分かった。俺から行く。』
「じゃあ、僕は次だね。」

さて、どのような結果がでるかの？

side out

第四目：ある日の理事長（後書き）

短くてすいませんｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想などなどあれば

コメントお願いしますｏｒｚ

第五目：賽を振る者（前書き）

前回のあらすじ

突如現れた「とある学園の理事長」

彼が目論む計画とは！！　←フラスコです。はいｗｗ

第五目：賽を振る者

ｓｉｄｅ　ｉｎ　～球磨川　楔～

なんだこのジジィはいきなり現れて
サイコロ振れだぁ～？
ハッ何考えてんだか知らねえがやってやんよ！！

『・・・・分かった。俺から行く。』
「じゃあ、僕は次だね。」

ジャラジャラ・・・ヒュッ・・カラッカッカラッカラララララララ・・・・・・・・・・

『！！！・・・・何だこりゃ！！』

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　ｉｎ　～球磨川　雪～

『！！！・・・・何だこりゃ！！』
「じゃあ次は僕ね。」

ジャラジャラ・・・ヒュッ・・カラッカッカラッカ・・・パキン

「ええっ！？」

side out

side in ～不知火 袴～

ふむ・・・興味深い結果が出ましたね。

初めにサイコロを振った楔くんは
振ったサイコロが回り続けた。
次に振った雪くんは
サイコロが止まった瞬間

全て同時に真っ二つになった。
二人とも出目が確認できないとは・・・・・。
想像以上の異常・・・いや・・過負荷というべきですか。

「球磨川先生、この子たちが大きくなったら
私の学園に入学させてはもらえませんか？」
「この子たちは計画に十分過ぎるほどに役立ちます。」

この子たちが参加することで〈フラスコ計画〉は急激に進むでしょう。

「まぁそれは追々考えるとして、
こちら側のメリットは？」

「もちろん入学金と授業料を免除させてもらいますよ。」

「それに加えて計画に参加させること。」

「もちろん、そのつもりですよ。」

『話が長くなるなら、少し散歩してきていいか？』

「ええ、いいわよ。しばらくはここにいるから
また帰ってきなさいよ？」

『分かった。』「はーい。」ガチャ

「・・・・行きましたか。ところで先生・・・・・。」

side out

side in ～球磨川 楔～

あのジジィを見ていると無性に腹が立つ・・・・。
確かに原作では悪人面で嫌いだったが
直に見ると想像以上だ。

ともかく原作介入のためにここであいつらに会っておかねば・・・・。

「兄ちゃん、やっぱりあそこに行くんだよね？」

『ああ、もちろんだ。
さぁ行くぞ。めだか(託児室)と善吉の所へ・・・・。』

第五目：賽を振る者（後書き）

ネタが頭にある内に書いとこ．．．。
あ、どうも笑行星ですｏｒｚ

やっと第五目まで来ました。
全然話が進まないｗｗ
あと、この病院には人吉瞳がいる設定ですｗｗ

まぁこれからもこんな感じでやっていきますので
これからもよろしくですｏｒｚ
誤字・脱字・意見・感想よろしくです。

第六目：原作介入で逝っちゃって　（前書き）

前回のあらすじ

サイコロ振ってまた明日〜

おわりｗｗ

第六目：原作介入で逝っちゃって

ｓｉｄｅ　ｉｎ　～球磨川　楔～

原作ではめだかと球磨川が初めて会った数日後、
病院内の託児室でめだかと善吉が会うことになっている。
そこに行けば原作介入しやすくなるとみて
俺たちは託児室に行くことにした。

ガヤガヤガヤガヤ．．．．

『しかしうるせえな、イライラする。』

「確か今はめだかが病室を抜け出した頃でしょ？」

『ビンゴ！！さっさと託児室に行くぞ！！』「は～いｗ」

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　ｉｎ　～？？？～

「黒神めだかはどこに行った！？探せ！！」
「まだそんなに遠くにはいってないはずだ！」

・・・・思ったよりも大ごとになってしまった。
外に逃げることはどうやら無理そうだ。
ひとまず私が逃げ込んだ先は託児室だった。
病院に勤める医者や看護士が勤務中に幼子を預ける部屋である。
幸いタイミングがよかったようで
部屋にの中には先客がひとりいるだけだった。
ほとぼりが冷めるまでここで身を隠そうと
私は先客に挨拶をすることにした。

「おい。」
「そんな単純なパズルに何をてこずっておる？貸せ。」
「私がやってやる。」

ガチャガチャガチャガチャ・・・・・・・・

「ほら、解けたぞ。」

「うわあっすごいねきみ！」
「どうやっても解けなかったのに！」
「ありがとう！すっごくうれしいよ！」

「・・・礼には及ばない。」
「私にとっては取るに足りないことだ。」

「じゃあ
じゃあさ！これも解いてよ！！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。」

『解いてやれよ。
それもお前にとっては取るに足らないものだろ？』

「貴様はいつか会ったな・・・。確か・・・球磨川楔といったか？」

『よく覚えているな。ちなみにこいつは俺の弟の雪だ。』

「よろしくね。」

「ああ、こちらこそよろしく頼む。」

『っと
とりあえずそれを解いてやりなよ。』

「ああ、分かった。」

そう促されて部屋にあった全てを解いた。

「うわああ！本当に全部解いちゃった！」
「すごいすごいすごい！」
「きみはすっごくすごいや！！」

「・・・・・・・・すごくなんかない。」
「それにすごくたって何もならない。」
「私が生きていることに
私が生まれたことに
何の意味もないのだから。」

「えー？そうかなー？」
「この世に意味のないことなんてないと思うけど？」

「・・・・・・・だったら私に教えるがよい。」
「私は一体何のために生まれてきた？」

「あはっ！そんなことは簡単だよ。」

「会ったばかりの僕をこんな嬉しい気持ちにしてくれたきみなんだ。
」

「きっときみは
みんなを幸せにするために生まれてきたんだよ！」

side out

第六目：原作介入で逝っちゃって　（後書き）

後書き　どうもお疲れですぅ～ｏｒｚ
一気に三つはしんどいｗｗ
短いですが今晩はこれまでにしとときます。

次の更新をお楽しみにノシ
こんな小説ですが末長く付き合ってやってくださいｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想よろしくですｏｒｚ

第七目：自分自身を受け入れる（前書き）

前回のあらすじ

原作どおり善吉がめだかに
生きる理由を言う

おわりｗ

第七目：自分自身を受け入れる

ｓｉｄｅ　ｉｎ　黒神　めだか

こんなことが信じられるか？
私は今まで
私のことを勝手に期待しては
勝手に飽きていた大人を見てきた。

だが・・・・・
この目の前の男の子に言われた言葉に私は救われた。

「きっときみは
　みんなを幸せにするために生まれてきたんだよ！」

いつの間にか目からは涙が溢れていた・・・・・・。

side out

side in 球磨川 楔

とりあえずは原作通りに進んだな・・・。
下手に介入すれば変な方向に分岐しかねんからな（（汗
・・・・おっと、あいつのことを忘れてた。
あいつにも顔を合わせなくちゃならんからな。
どうにかしてこいつの家に行かねえと・・・・しかしどうする？

「ねえねえ。きみ、僕とはじめましてだよね？」
「僕は人吉 善吉っていうんだ！よろしくね！」

『あぁこちらこそよろしく。』
『俺は球磨川 楔だ。こいつは弟の・・・・・・「球磨川 雪だよ。
よろしくね（＞∀＜）」・・・だ。』

「これで僕たち四人は友達だね！」
「そおだ！！今度一緒に遊ぼおよ！！！」

おっ！ナイスだ善吉！！

「ふむ、それは良い考えだ。」
「後日私の家に招待することにしよう。」
「球磨川兄弟、貴様らの家はどこだ？」

『俺たちはしばらくこの病院に住み込むことになっている。』

「分かった。なら私が迎えに来るから安心しろ。」

『そうするよ。』
『じゃあ俺たちはもう行くよ。じゃあな、めだか、善吉。』

「ばいばーいノシ」

「あぁさらばだ。」

「またねーノシ」

『うまく家に行けるようになったな。』

「兄ちゃん、くじらちゃんに会う気でしょ？」

『よく分かったな。その通りだ。』

『あいつをこっち側に引き戻しておかないと。』

「でも、原作と違う分岐にならない？」

『大丈夫だ。こっち側に来てもあいつは自分からひとりになる。』

「何で分かるの？」

『・・・・・・勘だ。』　そういえばあいつらにも会っとかないと。

『なあ雪、先に母さんの所に帰っていてくれ。俺は用事を済ます。』

「何々？兄ちゃんひとりで何をしようとしてるの？」

『原作介入に関わることだ。お前が一緒にいると大変なことになるからな。』

「ひどいよ兄ちゃん（（泣」

「まぁいいけどねっ！じゃあ先に帰ってるよー。」

『あぁ俺もすぐに戻る。』

うまく分かれることができた。
あいつを連れていくと病院を崩壊しかねないからな・・・。

第七目：自分自身を受け入れる（後書き）

お疲れです～ｏｒｚ　笑行星です。

最近はネタが作れない・・・。

書いてほしいオリネタなどがあれば
コメくださいｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想などもあればコメントよろしくですｏｒｚ

第八目：生れし究極（前書き）

前回のあらすじ

とりあえず
くじらを不幸から解放するために
家に行くことに・・・・っとその前に
会わなけらばならない人物が・・・・・・。

第八目：生れし究極

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　楔

原作では出会いがしらに釘バットで殴りつけるという
常識外れなことをした志布志飛沫（しぶしぶき）に会うためには
とりあえず釘バットで殴られる必要がある。
しかし、そんなことを雪の前で見せたらあいつがキレる。
だから俺はあいつを先に帰らした。

そして俺は、原作で二人が座っていた長椅子の前に来た。

・・・・・

そう。座っていた、だ。

あれ？
・・・・・・二人ともいねぇじゃん！！
あ、待てよ？確かあの二人が初めて会ったのは・・・・・・五歳だ・・・。
今、俺は二歳だから・・・・後三年待たないとダメだｏｒｚ

『仕方ない、五歳になるまで気長に待つか。』

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川環（くまがわたまき）（楔・雪の母）

第五目：賽を振る者を参照

「・・・・行きましたか。ところで先生、私たちのＢＯＳＳが招集を掛けているので
あの子たちが帰ってくる前に行きましょう。」

「私も参加ですか。やれやれ・・・あのお方が私に何の用ですかね。」

「フラスコ計画のことじゃないでしょうか？」
「ＢＯＳＳはフラスコ計画が気に入っているようね。」

「それは光栄ですね。」

「さて行きましょう。ＢＯＳＳはここの地下二七階の第一会議室で待っています。」

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ　不知火　袴

表では竹本グループの社長、裏では金を渡せば何でも引き受ける
「ＣＤ-コアー・ダーク」の支配人。
しかも、幹部クラスは三十人でその全員が能力者という
超エリート集団だ。・・・噂では支配人本人も能力者だとか・・・・・
。

「ともかくその場所へ行きますか。」

～移動中～

コンコン
「ＢＯＳＳ。生体科学研究チーム一班班長、球磨川です。」

?うん、入って。?

やけに高い声のような・・・。

「失礼します。お久しぶりですねＢＯＳＳ。」
「初めまして。私はフラスコ計画の管理・運営をしています、
不知火　袴ともうしまっ！！」

?はじめまして、不知火さん。僕が竹本です。?

なんと．．．．．．。一会社の社長で組織の支配人が子供だと．．．
！
見た目からして．．．．高校生くらいですかな?

?高校二年ですよ、不知火さん。
会社や組織をまとめるのに年齢は必要ありません。?
?必要なのは個人能力と統率力です。?

「人の心が読めるとは．．．．。」
「あなたにも能力が存在するという噂は本当でしたか。」

?これだけの組織をまとめるのに能力の一つや二つは必要ですよ。?
?雑談はこれくらいにして不知火さん、
あなたには頼みたいことがあります。?

「．．．．なんでしょう。」

?あなたが管理しているフラスコ計画の人材に一人追加してほしいのです。？
?私の友人である石巻含（いしまきふくみ）という女性です。？

「女性ですか。まぁ計画に参加するのは構いませんが
その方はこのことを知っているのですか？」

?知っていますよ、そこにいるのですから。？

?どうも初めまして。？

「「！！！！！」い・・・いつの間に・・・・・・。」

?初めからいましたよ。ねぇ？？

?うん。まぁ分からなくても当然だよ。？
?私の鏡（コズモ）に映った虚像が発動してるからね。？

「やはりあなたも異常（アブノーマル）でしたか。」

?いいえ、私たちは普通（ノーマル）でも特別（スペシャル）でも異常（アブノーマル）でも過負荷（マイナス）でも
はたまた悪平等（ノットイコール）でもない。？
?私たちのような悪平等の上を行く者たちを究極（ゼロ）と言います。？

・・・

「私たちということは他にもいるということですね？」

？そうですね、

身近で言うとそこの球磨川先生の息子さんも究極です。？

「！！まさか・・・普通の異常とは違うとは思っていたけど・・・・。」

？さて不知火さん、石巻さんを頼みますよ？？

「・・・・分かりました。」

これから先はひどく疲れそうですね・・・。

side out

第八目：生れし究極（後書き）

新しいクラスも作らなきゃ・・・。

「究極」と書いて「ゼロ」と読む。

名前を付けるのも一苦労ｗ

そろそろキャラ紹介第二段をやりたいと思います。

誤字・脱字・意見・感想ｅｔｘ．よろしくです

第九目：黒神家のひととき（前書き）

ども～笑行星でふ。

前回のあらすじ

オリキャラがログインしました。

おわり

第九目：黒神家のひととき

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　楔

善吉の提案で
俺、雪、善吉の三人でめだかの家に遊びに行くことになった。
めだかから連絡があり、病院の正門で待つように言われた。

『なぁ雪よ、めだかの家に着いたら俺はくじらの所に行くから
めだかと善吉の相手をしていてくれ。すぐ戻るから。』

「分かった。二十分だけね？ｗ」

『う～ん、たぶん行けると思・・・・う・・・ん？何の音だ？』

バラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラバラ

『な・・何だありゃ・・・・・。』

「兄ちゃん・・・あれってまさか・・・・・。」

「ハハハハハハハハハ待たせたな、球磨川兄弟よ！」

「今降りるから待っておれ！！」

めだかんちって・・・原作通り無茶苦茶だな・・・・。

～めだか宅～

「「「「「おかえりなさいませ、お嬢様。」」」」」

「うむ。」

玄関開けたらメイドがいるってこの時代にあったのか・・・・。
ってか玄関まで来るのに
家の正門から玄関まで十五分くらいかかったし・・・。

「ここが私の部屋だ。思う存分遊ぶがよい。」

「わーい！楔くん、雪くん、何して遊ぶ??」

『分かった分かった。
でも、先にトイレに行きたいから雪と遊んでいてくれ。』

「はーい。雪くん、何で遊びたい？」

「う～ん、そこにあるパズルしようよ。」

「そーしよー！」

『じゃあ、トイレ行ってくる。』ガチャ、バタン

・・・さて、確かくじらは図書館にいるんだっけ？
とりあえず行くか・・・・。

ここかな？ガチャ

カリカリカリカリカリカリカリ・・・・・・

あーいたいた。机に鎖で繋いですごい形相でなんか書いてる。

「てめぇ誰だ。」

おっと気付いたか。
まぁ自己紹介はしとかないとな。

『俺は球磨川　楔だ。あんたの妹の友人だよ。』

「けっ、そういうことかよ。」

『あんたはなんでそんなに勉強してんだ？』

まぁ知ってるけどw

「そんなの決まってんだろ。素晴らしいものを生み出すためだ。素晴らしいものは地獄からしか生まれない。歴史上の天才は大体不遇な人生を送ってんだ。偉大な発明も発見も大抵劣等感から生まれてんだよ。だからオレも絶対に幸福になっちゃいけねーんだよ。だからオレの前から消えろ。」

『幸福になっちゃいけない・・・・・か・・・・。』
『確かにそうかもな。』

「あん？」

『確かに歴史上の偉人たちは不遇な人生を送っていたという説は多くある。』
『案外、あんたの言うとおりかもな。』

「オレの持論に賛成する奴は初めてだ。てめぇもそういう口か。」

『だが、全てがあっているとはいえない。』
『不遇や苦労があれば色んなもんが生み出せるかもしれねえが
幸福の中にはそれ以上に生み出せるものがある。』
『それを知れば、あんたは今と比べ物にならないくらいに成長する。
』

「他人のくせにエラそうにしやがって・・・。
ならてめぇの言う幸福の中にあるものってのは何なんだよ!!」

『それが分からない内はあんたは成長できない。
できたとしてもそれは限界のある成長だ。』

ぺらっ
カリカリカリカリ・・・・・・・ コトッ

『よしっ。
考えても考えても答えが見つからなかったら
その鎖を外して部屋を出て俺の所に来い。答えを教えてやる。

まぁ、あんたなら教えなくても答えを見つけれるだろうがな・・・・。』

コッコッコッコッコッコッコッ
ガチャ

『それはあんたの好きにしてくれ。ただの暇つぶしだ。』バタン

side out

side in 黒神 くじら

なんなんだ、あいつは・・・・。
・・・・さっき何か書いていったな。

ぺらっ

「なっ!!!これは・・・・。」

『これらのことから、3 以上の自然数 n について、xn + yn = zn となる 0 でない自然数 (x, y, z)

の組み合わせはない』

この問題は、オレがどうしても解けなかった数学界最大の難問といわれているフェルマーの最終定理だ。長年誰にも解くことのできなかった問題を、たった数秒で解きやがった。

「くそっ・・・・・。
分かった、やってやんよ」

グシャグシャグシャ
ガコン

「そこまで言うなら答えを見つけ出してやる。」

オレは楔が書いた紙を捨てた。

side out

第九目：黒神家のひととき（後書き）

お疲れさまですぅ。

家ではなかなか更新できないんで
学校で更新するのはいいんだけど
見つからないかなぁ・・・。ドキドキ

他の小説の言い回しを使わせていただいてます。
すいませんｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想よろしくです。

第十目：狂神の覚醒（前書き）

前回のあらすじ

くじら救出

おわりｗ

第十目：狂神の覚醒

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　楔

くじらに会ってから数日が過ぎた。
どんな反応するか心配だったがすんなり出てきてくれた。
それからというもの
俺、雪、めだか、善吉、くじら、（まぐろ）の四人（＋シスコン）で
暇があれば遊んでいた。

ところで、少し問題なんだが
俺たちは善吉を除いて全員が異常だ。
それに伴って非常にトラブルが多い。
まぁそれも現在進行形なんだが・・・・・・。

「んだクソガキ、人様にぶつかってきてんじゃねぇぞ！！」

俺はまぐろにめだかとくじらに買うプレゼント選びに連れていかれた。

「だからさっきから謝っているじゃないか。」

そこでテンションがおかしかったまぐらは前を見ずに走っていたら見るからに不良な男五人の一人にぶつかった。

「あん？開き直ってんじゃねぇよ！！」

バキッ

「ぐわっ！」

『おい！大丈夫か！！』

殴りやがった・・・・ぶつかったのはこっちだが子供だぞ！・・・・・・少しお灸をすえる必要があるな・・・・・。

ザッザッザッザッザ

「なんだ？てめぇもやんのか？」

『「だまれよ」』

「！！な・・・なんだこいつ・・・・・・・・。」

「てめぇはまぐろを殴ったな？」

ズムン

「かはっ・・・・・・。」

『まず一人。』

『てめぇらもかかってこいよ。』

「く・・くそったれえぇぇぇぇぇ！！」

スカッ、ズシャッ

『とりあえず遅せぇ。てか、空振ってこけるとかベタすぎだろ。』

『迸（はし）れ。電攻赤華（ライトニング）』

バリリリリリリリリリリリリリリリリリリ

「ぐわあああああああああああああ！！」

「こいつ・・・人間じゃねぇ・・・・・。」バタッ

『二人。』　フッ

「き・・・・消えた！」

ガシッ　『焼却（も）えろ。発火減焼（スパークリング）』

ボウゥ

「あああああああああああちいいいいいいいいい。」ゴロンゴロン

『三人。あとふたr「楔くん！後ろだ！！」　い！！』

グシャ

「はあはあ、なめんじゃねぇぞガキが！！」

これは・・・鉄パイプか？

頭に直撃はキツイ・・な・・・・。

side　out

side　in　球磨川　雪

兄ちゃんたち遅いな~。
兄ちゃんたちが遅すぎるから
めだかちゃんと善吉くんが拗ねちゃったじゃん。

あ！
あそこにいるのまぐろさんだ！！
でも兄ちゃんが見当たらな・・・・い・・。
あれ？どういうこと？何で兄ちゃんが倒れてるの？
兄ちゃんが血塗れ・・・・兄ちゃん・・・・。

兄ちゃん

兄ちゃん

「う・・・・・う・・・・・・うわあああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁあああああ!!!!!!!!!」

＜狂い鬼(バサーク)＞

side　out

第十目：狂神の覚醒（後書き）

初めての戦闘？シーン

尋常じゃないくらい難しすぎる（（泣

戦闘が上手くかける人、尊敬します。

これから一気に話を進めたいと思います。

誤字・脱字・意見・感想よろしくです。

第十一目：兄のために・・・・・・（前書き）

前回のあらすじ

雪の覚醒、狂神と化す。

おわり

第十一目：兄のために・・・・・・

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　楔

あの日以来、雪はまったく外に出ないようになった。
俺たち四人がなんとか外に出そうと必死だった。
特にまぐろは相当きているようだった。
「僕のせいだ・・・僕のせいだ・・・・。」とか
全部背負い込んでいるような感じだった。
まぁ雪からすればもう二度と外に出るのは
嫌だろうがな・・・・・・・。

～時は遡る～

「う・・・・う・・・・・・うわあああぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁあああああ！！！！！！！！！」

『ま・・・待て・・・そ・・・そぎ・・・・・・・・・お・・れは・だい・・・じょう・・ぶだ・・。』

「ぐうううぅぅぅぅぅぅぅぅぅうううううがあああああああああああああ！！

！！！！！」

「ひっ、な・・・何なんだよこいつ！！」

「ぐるるるるるるるるるああああああああ！！！！！！！」

「や・・・・やめｒグチャ・・・・・・・・・・・・

恐れていたことが起きた・・・・。
俺たちがもっと小さかった頃
俺が犬に噛まれた時は
犬を虐殺した・・・・・・・。
だから今まで俺が怪我しそうな場所には
こいつ(雪)を連れて行かなかった。
致命的なミスだ・・・・・・・・・俺のせいで人が死んだ。

ともかく雪を止めねえと！！

よし！虚偽(治った)なった！！

『雪、止まれ！！俺はこの通り怪我の一つもしていない！！』
『お前が狂い鬼(バサーク)する必要はない！！！』

「ぐううううぅぅぅぅぅ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・にい・・・・ちゃ・・・・・ん・・・・・・・・・・・。」

バタッ

なんとかおさまったな・・・・

「ひっ・・・・・・ひぃぃぃぃぃ・・・・・・・・・。」

『恐いか？心配するな。このことを記憶する必要はない。』

ガシッ

『忘却王（エンドレス）』

「あっ・・・・・・・・。」バタッ

死んだ奴も生き返らせないとな・・・・・・・・・・。

『It's A Allfiction』

『まぐろ！早く逃げるぞ！！』

「う・・・うん。楔くん、さっきは助けてくれたよね？」

『それがどうした？』

「ありがとう。君には感謝しっぱなしだよ・・・・。」

『そんなこと言ってる暇があったら走れ！！』

～回想終了～

「しかし驚いたな・・・雪にそのような異常があったとは・・・・。」

「ほんとだね。やられた人たち大丈夫かな？」

「人吉、言うな！変態兄貴と雪が気にするだろう！！」

「僕のせいだ。」

上からめだか、善吉、くじら、まぐろだ。
（まぐろに至ってはもう目も当てられん・・・・。家に帰ったらこうなっていた。）

「しかし楔よ、雪の容体は？」

『今母さんが診察している。
心配するな、母さんはあれでも医者だ。死ぬようなことはないさ。』
『だからまぐろ、そんなにウジウジするな。』

「わ・・・・わかったよ。」

「ところで楔よぉ
死んだ人間どもはどうしたんだ？そのままってわけにはいかねえだろ？」

『あぁ、俺が生き返らせた。』

「！！」「！！」「なっ！！」「？？」

「どんな魔法を使ったんだ。」
「それともそれがてめぇの異常ってわけか？」

『ん～そうとも言えるしそうとも言えない。』
『この能力はただの一部でしかない。』

「てめぇは人間か？」

『あぁこれでも人間だ。一応・・・・な。』

「今度てめぇを弄(調べる)くる必要があるな・・・・。」

『止めてくれ（（汗
俺と雪の能力についてはまた今度話すから今は休ませてくれ・・・・。』

「・・・・・・・あぁ、分かった。」

いよいよ話すことになったな・・・・・。
まぁ結局は意味のないことなんだが・・・・・・・。

side out

第十一目：兄のために・・・・・・（後書き）

いよいよ話数も二桁を越えました。
ネタの底が尽きないか心配です・・・・・・・。

誤字・脱字・意見・感想よろしくです。

第十二目：Ｐ－ＴＴ・人体実験（前書き）

お久しぶりです。
最近は、宿題だの台風だので更新する暇が・・・・・。
これからも気張っていきます！！

前回のあらすじ

雪が覚醒

終わり

第十二目：Ｐ－ＴＴ・人体実験

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　楔

俺たちは今までの疲れを癒すために休息を取っていた。
あの事件が起きてから二日後のこと・・・・・・。

「楔～疲れてるところ悪いんだけど雪を連れて地下実験室に来てくれない？」

『マジかよ・・・俺はいいとして、雪は大丈夫なのか？』

「ええ、もう意識もあるし動けるはずよ。」

初耳なんだが・・・・・・。何で俺に言ってくれねえんだよ・・・・・！！

『・・・・分かった。実験室だな。』

「頼むわね。」

まったく、何をしようってんだ・・・・・・・ん？　実験室？
まさか”あれ”をする気じゃ・・・・・・・・・。
・・・・まぁ、行くしかないか・・・・・・・・。

コンコン
『雪、入るぞ？』
ガチャ
『久しぶりだな。元気にしてるか？』
「最悪な気分だよ。初めて人を殺したからね・・・・・・・。」
『安心しろ。”大嘘憑き”を使ったから。』
「ありがと。兄ちゃん・・・。」
「それで何の用事で来たの？」
『あぁ、母さんが地下の実験室で来いって。』
「ん。分かった。」
う～ん。
雪の奴大丈夫か？
しばらくは気をかけておくか・・・・・・。
～地下実験室～
『母さん、連れてきたぞ。』
「来たわね、早速だけど”あれ”をやるわよ。」

「”あれ”って？」

『人格の融合・・・・か？』

「えぇ、話が早くて助かるわ。」
「これが成功すればあなたたちは一人として生活することになるけど・・・・・。」

『まぁそれはいいや。
それよりも善吉やめだか、くじらとまぐろたちにはどう説明するんだ？』

「あの子たちには事故で死んだって説明するわ。可哀想だけど・・・・。」
「融合で外見も混ざっちゃうから結局は分からなくなるからね・・・・。」

『随分と簡単に済ますんだな。』

「仕方ないことだからね・・・。
でも、楔たちには大きくなったらめだかちゃんたちと同じ学校に行くことになるわよ。」
めだかたちに会うのが嫌になってきた・・・・・。

「さて、さっさと始めるわよ！」
「まずは主人格をどっちにするか決めて。」

『・・・どうする、雪？』

「僕はいいや、兄ちゃん譲るよ。」

完全にこの前のことを引きずってやがるな・・・。
まぁ言っても無理か・・・・。

『分かった。』

「決まったようね。」
「さぁあのカプセルに入って。」
「いくわよ？」

『おう！』「うん！」

side out

～実験開始から数分後～

ｓｉｄｅ　ｉｎ　？？？

なんだここは・・・・。

〈ここは君の精神の世界・・・・とでも言っておこうか。〉

だれだ！！

〈ぼく？　僕は限りなく君と等しい存在だよ。〉

〈まぁ雪と名乗っておこうか。〉

どういうことだ！

おれは・・・・だれだ・・・。

〈記憶を失っているの？しょうがないか。〉

おまえはなにをしっている！
ぜんぶはなせ！！

〈これは君が思い出さないといけないことだよ。〉
〈全てを取り戻したら僕も君の力になってあげる。〉
〈だから今は我慢してね？〉

ふざけるな！
かってにはなしをおわらすな！！「・・・・・・・・て・・・・・」

このこえはなんだ！？

「・・・・・きて・・・」

〈お迎えが来たようだ。〉
〈じゃあね。また夢の中で会おう。〉

ま、まて！まだはなしは・・「起きて！！」

『うわっ！』ガバッ

「大丈夫？うなされていたけど・・・・。」

『あぁ大丈夫だ・・・。ただ頭にもやがかかったみたいだ・・・・。
』

「気になるけど大丈夫そうね、楔。」

『誰だそれ？』

「あなたのことよ、何言ってんの。」

『違う！俺は雪だ！！』

「だから何言って・・・！！」
（まさか・・・記憶が混同してる？）
「わ、分かったわ雪。間違えてごめんなさいね。」

『分かればいいんだよ。』

「ねぇ雪、あなたには兄弟はいる？」

『あ？そんなもんいるわけねぇよ。分かり切ってんだろ。』

「そ・・そうね・・・。」

（やっぱり記憶の混同の影響で弟（雪）のことを忘れてる。）

『俺はもう寝るぜ？色々あって疲れた。』

「えぇ、おやすみ・・・。」

side out

第十二目：Ｐ－ＴＴ・人体実験（後書き）

戦闘シーンに比べてこういう方が楽ですね～。
戦闘は本当に嫌いだ・・・・。

誤字・脱字・意見・感想よろしくです！！

第十三目：過負荷に会いに行く～再び～（前書き）

ＰＣが壊れてもう５日．．．．。
ＰＳ３で更新するのはいいけど
ネット回線が不安定だから勝手にサインアウトされる（泣）
それでもがんばってうｐしていきたいと思います！！

前回のあらすじ

楔と雪が合体→一部記憶喪失ｗ

おわり

今回から「楔」の呼び方が「雪」になります。

第十三目：過負荷に会いに行く～再び～

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　瞳

私は実験が終わって倒れた楔を地上の病室に寝かした。
雪がいなかったから実験は成功でいいだろう。
しかし、融合の過程で記憶が混同し、弟（雪）のことも忘れていた。
くさ．．．．雪が寝入った後、私は地下実験室の私の部屋に行った。
（今度からは楔のことを雪って呼ばなきゃ．．．．。）
「どうしようかしら．．．．弟（雪）の人格が表に出てくればいいけど．．．。」
人格と記憶について研究しなきゃ．．．．
「これから忙しくなりそうね。」

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

球磨川瞳が悩んでいる同じ時間帯．．．．．
兄（雪）はあまりに眠れないので働かない（フリーケイト）を使って
結構な時間眠っていた。

こんな書置きを残して・・・・・。

『ちょっと三年くらい眠るけど心配するな。死なないからw』

この書置きを球磨川瞳が見るのは次の日の朝だという・・・。

～三年後の朝～

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　雪（兄）

『んん・・・・・あぁ朝か・・・・・。』

『今、何日だ？』

○○○○年××月□□日

あれ？おかしいなぁ・・・。

年の部分が三年増しに見える・・・・。

～思い出し中～

『そうだ。〈働かない（フリグケイト）〉使ったんだった。』
『ってか体が異常にでかくなってる・・・。』↑（そりゃ三年も経てばねぇｗ）

三年ってことは今は五歳か・・・・。

ああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああ

忘れてた！
これくらいの頃には志布志と蝶ヶ崎が病院に来るんだった！！
『やべぇ、早くしねぇと・・・。』

俺は病室前のベンチへ急いだ。

～例のベンチ前～

はぁはぁはぁはぁ・・・・間に合ったか・・・・。

『よう、お前らが志布志と蝶ヶ崎か？』

「あぁ？誰だてめぇ。」

やはり志布志はケンカ腰か・・・・・（蝶ヶ崎はゲームしてやがる。）

『球磨川　雪っていうもんだ。よろしくな。』

さぁ来るか？

「・・・・あぁよろしく・・・・。」

ドガッ

来やがった！！
釘バットで人を殴るとか・・・。

「あ～ごめんなさいもう二度としません許してください」

『あぁいいよいいよこんなの〈不慮の事故〉だから。』

「「！！！！！」」

志布志だけじゃなく蝶ヶ崎まで驚いてやがるｗｗ
まぁそりゃそうか、蝶ヶ崎が言ったはずのセリフを
俺が言ったからな。

「てめぇは何もんだ。」「あなたは何者ですか。」

『そんなに警戒しなくてもいいって
別にお前らに危害を加えようとしてるわけじゃねえよ。』

『と言っても、もう〈遅期(手遅れ)発見〉だがな。』

side out

第十三目：過負荷に会いに行く～再び～（後書き）

ＰＣ無いしＰＳ３はサインアウトするし
学校が一番うｐしやすいｗｗ

できる限り学校で早急にうｐしたいと思いますぅ。
これからもよろしくお願いしますｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想よろしくです。

第十四目：もう手遅れ・・・・。（前書き）

どーもです。
昨日と同じく某学校でうpしちゃってますｗｗ
最近は体育祭の準備とかで忙しい（泣）
でも、一週間に一回はうpしたいと思います。

前回のあらすじ

二歳の時に会いに行って会えなかった過負荷の二人に会いに行く
←
志布志に釘バットで殴られる
←
少しだけ反撃開始ｗ

おわり

第十四目：もう手遅れ・・・・。

ｓｉｄｅ　ｉｎ　志布志　飛沫

『よう、お前らが志布志と蝶ヶ崎か？』

病院のベンチで座ってたあたしらの前に一人の子供が現れた。
ここにいるってことはこいつも何かの異常があるのか？
それともあたしらと同じ・・・・・。いや、それはないか。
過負荷は数少ないからな・・・。

「あぁ？誰だてめぇ。」

『球磨川　雪っていうもんだ。よろしくな。』

どちらにせよこいつのスカした態度が気に食わねぇな。
一発食らわすか・・・。

「・・・・あぁよろしく・・・・。」

ドガッ

そーいえば蝶ヶ崎も釘バットで殴ったよなー
あいつの過負荷に気づいたのはあの時が最初か・・・・。
「あ～ごめんなさいもう二度としません許してください」
これもあの時言ったな・・・。
『あぁいいよいいよこんなの〈不慮の事故〉だから。』
これもあの時蝶ヶ崎が・・・・あれ！？
「「！！！！！」」
蝶ヶ崎が過去に言ったセリフを何故こいつが知ってる！！
これにはさすがの蝶ヶ崎も反応してやがる・・・・。
「てめぇは何もんだ。」「あなたは何者ですか。」
『そんなに警戒しなくてもいいって

別にお前らに危害を加えようとしてるわけじゃねえよ。』
『と言っても、もう〈遅期発見《手遅れ》〉だがな。』

「てめぇ何言ってｙ「志布志さん！！」！！」

なんだよこれ・・・・。
なんであたしの腹から血が出てんだよ・・・・。
まさか！こいつも蝶ヶ崎と同じ＜不慮（エンカウンター）の事故＞のスキル持ちなのかよ！！

『バカが、さっきも言ったろ？もう手遅れだって・・・・。』
『これは俺の過負荷、＜遅期発見（ゲットバック）＞の能力だよ。』

「てめぇも過負荷のスキル持ちだってのかよ・・・・。」

『半分正解かな。』

「どういうことだ！」

『この＜遅期発見＞は俺の数多のスキルの一つに過ぎない。』

「複数のスキルを持っているだと？そんなことありえねぇ！！」

『何故そう言い切れる。お前はこの世の全てを知っているのか？』

「くっ・・・・。分かったよ。それで、あたしたちをどうするつもりだ？」

『だから何もするつもりじゃないって』

『今のはただのあいさつだよ。』

『ほら、よく見ろ。一体どこから血が出てんだ？』

「なっ！！」

どうなってやがる！

さっきまであったはずのケガがきれいさっぱり無くなってやがる！！

『じゃあな。また会うだろうからその時はよろしく。』

「はぁ？てめぇ何しに来たんだよ！！」

『だからあいさつしに来たって言ったじゃん。』

『今度会った時は殴るなよ～。』

・・・・・・・・何なんだあいつは・・・・・・。
あまりにも規格外過ぎてわけが分んねえよ・・・・・。

「なぁ蝶ヶ崎。あいつに勝てるか？」

「無理でしょう・・・・。私の＜不慮の事故（エンカウンター）＞でも勝てませんよ。」

「あぁ、あたしの＜致死武器（スカーデッド）＞も効いてなかった。」

「世の中にはああいう過負荷（ひと）がいるんですね・・・・。」

「あたしはあいつが敵でないことを祈るよ・・・・・。」

てゆーかもう関わりたくない・・・・。

side out

第十四目：もう手遅れ・・・・。（後書き）

ＰＣが消失しますた＼（＾ｏ＾）／

なのでうｐ速が遅くなりますが

最低でも１週間でうｐします！！

これからもよろしくですｏｒｚ

誤字・脱字・意見・感想お待ちしてます。

第十五目：はじめての中学生！？（前書き）

うｐ遅れてすいませんｏｒｚ
体育祭でうｐする暇がなくて．．．．。

体育祭が終わり次第うｐ速度を上げたいと思います。

前回のあらすじ

志布志・蝶ヶ崎と接触、そのまま帰宅

終わり

第十五目：はじめての中学生！？

side　in　球磨川　雪

最近はいい気分だ。
少し前までは頭に靄が掛ったような感じだったが
ここ最近はまるでなかったかのようだ。

『さて、学校に行かないとな・・・・・。』

お？何で学校なんだ？って思った人に説明しよう。
俺は志布志たちに会った後、十一歳・・・・
すなわち中学生になるまで働かない（フリガケイト）を使って眠り続けていた。

確か・・・・
俺が行く学校はかの有名というわけではない球磨川禊が行く学校だ。
さぁ・・・どんなことが起きるかな？

～登校中・入学式～

さ～て、俺のクラスは・・・っと。
お？球磨川がいるじゃねぇか！

これは面白い・・・・安心院もいる・・・・・・？
黒神？誰だっけこいつ・・・・どっかで聞いたことがあるような・・・・。

【やぁ球磨川楔くん】【弟くんはどうしたんだい？】

出やがった・・・・。

『弟？誰だそれは。俺は一人っ子だし俺の名前は雪だ。』

【あれ？おかしいな・・まぁいいや】
【とにかく同じクラスのようだし】
【一緒に教室に行こうよ】

『あぁ、分かった。』

あの日・・・病院で会った時と比べればまだマシか・・・・。
だが油断はできないな・・・・様子見といくか・・・。

～放課後～

『・・・・いいだろ、特に何もなかったんだよ・・・。』

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　禊

二歳の時以来・・・かな？彼に会うのは・・・・。
僕の言葉に真っ向から反発してきたんだよね・・・。
だから僕は彼を気に入っているんだ。
彼って少年ジャンプの主人公みたいだ。

そういえばさっき
すごく素敵な人を見つけたんだ！
あれは完全に一目惚れだったね。
僕が恋をしたのは人吉先生以来だ。

彼女の名前は　安心院（あじむ）なじみ　だったかな・・。

絶対に僕の彼女にするんだ！！
あ！僕のこの声を聞いてるみんなは誰にも言わないでね！！
約束だよ？

第十五目：はじめての中学生！？（後書き）

とりあえず一つ進んだ．．．。
次は「禊の楽しい過負荷クッキング」を始めますＷＷ
誤字・脱字・意見・感想よろしくです。

第十六目：禊の過負荷クッキング！（前書き）

正直うｐする暇がありませぬｏｒｚ
この間も一回忌があったし・・・・・・。

まぁ頑張っていきます！

前回のあらすじ

中学校に入学→禊と合流

おわり

第十六目：禊の過負荷クッキング！

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　禊

やぁ、僕だよｗ
前回で話したことは虚偽（な）かったことにしてくれた？
あれからもう二年が経ったよｗ（早すぎるね）
僕は昨日、安心院（あんしんいん）さんに手のひら孵（ハンドレット・ガントレット）えしを借りたんだ！
彼女曰く、彼女は
７９３２兆１３５４億４１５２万３２２２個の異常性と
４９２５兆９１６５億２６１１万６４３個の過負荷、合わせて
１京２８５８兆５１９億６７６３万３８６５個のスキルを持ってる
らしいよ
数字がリアルすぎてさすがの僕もひいたよ．．．。

さて、これからは雪くんのラスト一年だ～
みんなも楽しんでってねｗ

（そういえば雪くんは何で弟くんを忘れてるんだろ？）

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

『禊～何してんだ？』

【いや～読者さんにあいさｔ．．．．】
【何でもないよｗ】
『なんだ？恋に溺れて頭が狂ったか？』
【そんなこと言わないの～】
【それより雪くん生徒会に入らない？】
『生徒会？なんでお前が？』
【いや～最後の一年くらい】
【僕の思い通りにならないかな～】
【って考えてたら生徒会長が一番早いって思ったんだ】
『生徒会長に立候補するとして他のメンバーは？』
【僕が会長でしょ？】
【副会長に君と安心院さん】
【庶務が高貴ちゃんでいこうと思ってるんだ】
【雪くんはどう思う？】
『まぁいいんじゃね？』
『でもだな、禊が会長になれるとは限らねえだろ？』
『どうせ会長は選挙で決めるわけだし．．．．。』
【心配いらないよ】
【邪魔な存在は高貴ちゃんに破壊（こわ）してもらうから】
『！！さすがは禊だな。考えることが違う．．．．。』

【褒め言葉として受け取っておくよ】

『まぁ俺は賛成だ。でも会計が足らなくないか？』

【別に揃わなくてもいいよ】

【どうせすぐにリコールされるし】

『じゃあなんで立候補するんだよ．．．．。』

【思い出作りだよ】

【安心院さんにも告白しないとねっ】

『玉砕のような気がするが．．．．。』

【でもね、僕は本当に安心院さんが好きなのか】

【分からなくなってきたよ．．．】

【僕はどうすればいいんだろう？】

『まぁ自分の気持ちに正直になれ。』

【う～ん】

【そうするよ．．．】

第十六目：禊の過負荷クッキング！（後書き）

お疲れ様です～ｏｒｚ
定期考査が近づいてきてます～ｏｒｚ
うｐがんばりまふ．．．．
誤字・脱字・意見・感想よろしくです！

第十七目：選挙発表そして・・・・。（前書き）

うｐが遅れてすいませんｏｒｚ

なんということでしょう！

定期考査を終えて
検定の嵐をくぐり抜けた先が
また違う検定という・・・・。

ぶっちゃけ今週末、検定ですｏｒｚ

あ～嫌になっちゃう！
うｐテンポを上げなければ！！

そんな感じでやっていきますｏｒｚ

前回のあらすじ

おや？球磨川　禊の様子が・・・・。

第十七目：選挙発表そして・・・・。

～箱舟中学～

ｓｉｄｅ　ｉｎ　球磨川　雪

生徒会選挙の結果が出た・・・・。
一応、前代未聞のことらしいぜ？

『いや～凄かったな。』
『支持率０％で生徒会になるとは・・・・。』

【それほどでもあるよｗ】
【こうやって邪魔な奴は】
【高貴ちゃんに破壊(こわ)してもらえば】
【事が簡単に運ばれるんだよ】

『おめぇ顔に似合ってえげつねぇな。』

【褒め言葉として受けっとておくよ】
【それよりさ僕からすれば】
【安心院さんが入ってくれるかが】
【心配なんだよね～】

『まぁ心配すんなって、安心院だけにｗ』

?僕を呼んだかい??

【『　!!!　』】

?私も居ますよ。?

『これはこれは安心院さんに石巻さん。』
『人外二人が何を?』

?失敬だな、それを言うと君もそうじゃないか。?
?君の創造主(クリエイター)は異常じゃないぜ??

『?・・・どういうことだ?』

?私たちのような能力を究極(ゼロ)と呼んでいます。?

?ホントだぜ。
７９３２兆１３５４億４１５２万３２２２個の異常性と
４９２５兆９１６５億２６１１万６４３個の過負荷、合わせて
１京２８５８兆５１９億６７６３万３８６５個のスキルを持つこの
僕でさえ
究極に入らないんだからな。?

?数が多ければいいというものじゃないですよなじみ。？

?分かってるよ。
だから、無から有を造れる君は
不気味なまでに究極なわけさ。？

『ってことは石巻の鏡に映った虚像も究極か？』

?・・・よく知っていますね。？

『俺の情報網をなめるなよ?』

【あの～人外同士の話に割り込んで悪いけどさ?】
【単刀直入に言うぜ?】
【石巻含と安心院なじみを生徒会に勧誘する】

言いやがった・・・
断られたら爆笑もんだが・・・・

?? いいよ。 ??

軽っ！！
声を揃えて返事しやがったよこいつら！
って、禊が大喜びしてやがる・・・。

【二人ともありがとう！！】
【じゃあ勧誘成功ってことで】
【役職を発表するよ】
【じゃあ雪くんよろしく】

俺かよっ！！
・・・まあいいや・・・。

『え～簡単に説明するぜ？』
『まず、生徒会長がそこの球磨川　禊
副会長が俺と安心院　なじみ
会計が石巻　含
書記が黒神　真黒
最後に、庶務が阿久根　高貴

こんなもんかな？』

【雪くんありがとね】
【じゃあ真黒くんには追々伝えるから】
【今日は解散～】
【明日から放課後は生徒会室に来てね？】

『はいよ～。』
？分ったよ。？
？了解っ。？

さてさて、ここからが地獄だな・・・・。

第十七目：選挙発表そして・・・・。（後書き）

お疲れ様でしたｏｒｚ
久しぶりのうｐなので
文を構成しにくかった・・・。

これからもこんな駄文をみてやってくださいｏｒｚ

第十八目：崩れ落ちる日常・・・（前書き）

忙しい・・・。
手持ちのＰＣも復旧不可になり、
空いた時間でネカフェに来ました。

こんなのでもこれからも見てやってくださいｏｒｚ

前回のあらすじ

禊と楔の目の前に現れた安心院なじみこと安心院さんと石巻含。
人外が集まり不穏な空気になるもＫＹの球磨川禊が二人を生徒会に勧誘する。
あっさりとＯＫされ大喜びの禊だが、楔はこれから始まる地獄に憂鬱だった・・・。

初めて真面目なあらすじｗ

第十八目：崩れ落ちる日常・・・

side in 球磨川 楔

人はなぜ生きるのだろう。
どれだけ泥まみれになってもどれだけバカにされても
しつこく、地を這って生きている。
何が人を突き動かすのだろうか。

それは「歴史を刻むためだ」と私は思う。

まだ見ぬ「未来」を想像し、
「今」するべきことを成し遂げ、
「過去」という名の歴史を作る。
その歴史が「未来」の子供たちに受け継がれ、
その子供たちが成長すると、今までの歴史を紡いでいく。

「今」というのは「未来」いくつもの分岐に転生させ、
「過去」へと退化する、最高の時間であろう。

人が生きるのは何も恥ずかしいことじゃない。
自分の命を絶つのは自由だがそれはつまり、
今まで紡いできた歴史を途絶えさせることになりうる。

だから死ぬときはよく考えろ。
自分にどれだけ大切なものが残っているのかを・・・・。

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ

【楔くんって意外と中二病なんだね】

『ほっとけ』

【その話どこかで聞いたような気もするし】

『当たり前だろ？』
『これは俺の古い親友が言っていたんだ。』

【その人は楔くん以上に中二病だね】
【マジで引くわ】

『そう言ってやんな。』
『それで？こんなところに呼び出して何の用だ？』

【こんなところって失礼な！！】
【それじゃあまるで　僕が楔くんを人気の少ない教室に呼び出して腐女子の方々がフィーバーするような展開に発展しそうじゃないか！！】

『ならねえよ！！』

【っというのは冗談でここに呼んだ理由はただ一つ】

『な．．なんだ？』

【だって僕たち生徒会じゃんw】

～生徒会室～

『部屋の名前見てなかった．．．ｏｒｚ』

【ところで楔くん】
【安心院さんと石巻さんを知らないかい？】
【そろそろ腑罪証明（アリバイブロック）で来るはずだけど】

『あ～今日は二人とも行けないって言ってたわ。』
『安心院さんがお前によろしくってさ。』

【そんな．．．あの二人と楔くんにお願いがあったのに．．．．】

『お願い？何だそれ言ってみろよ。』

【えぇっとね、ちょっとある人物に会ってほしいんだ】

『へぇ～そいつの名前は？』

【太刀洗斬子だよ】

side in 球磨川 楔

おいおいマジかよ・・・。
太刀洗っていやー
箱庭学園の選挙管理委員長になるやつじゃねぇか・・・。
あいつは「はたらかない」って書いたアイマスクをしてる
文字通り起き上がりもしないやつだ。
そんなやつに会ってどうする気だ？

ピーンポーン

・・・・出るわけねぇか。
まぁ動きもしないやつがドアを開けるわk「はーい、ちょっと待ってねー。」
返事しやがったよ！ガチャッ
「えぇーっと何の御用でしょうか？」

俺は今非常に燃えて・・・
じゃなくて、動揺している。何故って？
考えてみろよ、今まで布団から出たとこを見たこともないやつが。

平然と立って玄関を開けてきたんだぜ？

「あのー・・・。」

『あぁ、すまん。』
『球磨川禊に言われてきたんだが・・・・。』
「球磨川さんに！！」

「じゃああなたが私の望みを叶えてくれるの！？」

【は？望みって何？】

「え？聞いてないんだ・・・。」

「・・・私の望みは・・・・・。」

「眠りたいの。」

・・・よし説明しよう！

話によると太刀洗は生まれながら不眠症に悩まされているらしい。

深い眠りにつくことができず、

偶然、禊がやっていたサイトにヒットして助けを求めたらしい。

・・禊め・・・俺に創造主（クリエイター）を使わせるつもりか・・・。

めんどくさいが仕方ない・・・。人助けもまた一興っと・・・。

まぁ今の太刀洗にピッタリのスキルがあるんだけどな・・・・。

虚動不寝（ララバイ）

文字通り、「動かず、寝ず」だ。
大きな特徴は三つ。
・好きなときに好きなだけ寝られること
・寝た分だけステータスが上がること
・他人に感知・干渉されないこと

俺が遊びで作ったやつだ・・・。
三つ目に関しては安心院の無効脛（ライフゼロ）でさえも干渉できない代物だ。
唯一干渉できるのは・・・・まぁ今度話すとしよう。

『ってなわけでどうする太刀洗？』

「お願いします！！」

『後悔はしないな？』

「絶対にしない！」

『・・・・分かった。行くぞ？』

『弱肉恐食（ワンダートリガー）！！』

s
i
d
e

o
u
t

第十八目：崩れ落ちる日常．．．（後書き）

久しぶりにうｐ　ａｎｄ　長文を書きました。ｗ
うｐが亀進行・不定期ですが
これからもよろしくお願いしますｏｒｚ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3036w/

最強の名を持つ者たち

2012年1月5日18時35分発行